

## 1. はじめに

連日猛暑が続いていますが、発掘調査は順調に進んでいます。現在は、東側 A 区の調査を実施しています。今回のたよりでは、現在行っている作業の内容と、少しずつ見えてきた蕪木遺跡のようすについてご報告します。なお、この発掘調査だよりは市のホームページ「<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>」でも公開しています。あわせてご覧ください。



写真 1 遺構検出のようす

## 2. 遺構の検出と半截（はんさい）

先月号でお伝えした重機による表土掘削が終了し、7月12日から、いよいよ本格的な発掘調査に入りました。最初に、遺構検出（いこうけんしゅつ）という作業をします（写真1）。建物の柱や井戸などの痕跡である遺構を探す作業です。地面をうすく削りながら、土の色や硬さが周囲と異なる部分がないか探します。遺構は、昔の人が掘ったところなので、黒色や茶色の土が埋まっています。少しやわらかい特徴があります。いっぽう、地面は明るい黄色や灰色の土なので、こうした色や土質の違いを見分けながら、遺構を探していきます。

つぎに、見つかった遺構のかたちや大きさを確かめて、半分に割ります（写真2）。この作業は、遺構の半截作業と言います。半分に割った遺構の断面を観察することによって、何に使われた穴なのか、どのように埋まったのか、などを調べます。写真2の穴は半分に割ると、真ん中に10cmほどの黒いスジが見えました。これは、ひとまわり大きな穴を掘って、真ん中に木の柱を立てた建物の柱穴（ちゅうけつ）になります。柱穴のなかには、写真3のような柱根（ちゅうこん：柱として使われた木材）が残っているものもありました。

半截した断面については、写真撮影や図面などの記録を作成したのち、残りの半分を掘って、完掘（かんくつ）します。

このあとには、まわりに同じような穴がないか確認して、柱の配列や建物の大きさを調べていきます。現在 A 区では2軒の建物跡が見つかっています。建物は写真4のような作りであったことが想像されます。



写真 2 遺構の断面（中央の黒い部分が柱の痕跡）



写真 3 柱穴に残った柱根

### 3. 須恵器・土師器の集中地点

A区の東側と中央付近では、須恵器（すえき）や土師器（はじき）が集中する地点があります（写真5）。須恵器は灰色の硬質な陶器です。集中地点では、水がめに用いた甕（かめ）や坏（つき：碗形の土器）・蓋（ふた）などの食事に用いた道具がたくさん出土しています。

これらの集中地点には、黒い土が厚く堆積していて、土の中にはたくさんの炭が含まれているようすが観察できます。これから、この黒い土が遺構の土なのか調べていく予定です。また、これらの土は捨てずに、土のう袋に入れて持ち帰り、水洗作業を行います。水洗作業をすることによって、小さな種など当時の食生活を探るヒントが得られる可能性があります。



写真2 写真4 想像される建物（近江国庁跡  
Saigen Jiro から加工・転載）



写真5 遺物集中地点

### 4. おわりに

発掘調査は始まったばかりですが、さまざまな遺構や遺物が見つかっています。今後、発掘調査を進めていく中で、より具体的な性格に迫っていきたいと考えています。

遺跡では、7月12日に新発田南高校の生徒4名がインターンシップで見学に来ました（写真6）。また、7月23日～8月3日の2週間、ドイツ・テュービンゲン大学の留学生2名が研修のため調査に参加し、猛暑の中、作業員の皆さんと一緒に汗を流しました（写真7）。詳しくは市のホームページ「埋蔵文化財の活用」をご覧ください。



写真6 新発田南高校の皆さん



写真7 ドイツ・テュービンゲン大学留学生